

2022年度 日本老年看護学会 生涯学習支援研修 実践編（災害看護） 報告

日時：2023年2月23日（木） 13時30分～16時30分

実施方法：Web開催

参加者：24名（会員18名，非会員6名）

主催：災害支援委員会

テーマ：突然やってくる災害に備えて～様々な災害支援のプロフェッショナルと学ぶ～

内容：

講演1：DPAT活動～災害時の心理状態を知っておこう～

【講師】近森病院 総合診療センター病棟師長/精神科認定看護師 山中俊典

講演2：災害リハビリテーションのい・ろ・は

【講師】熊本県作業療法士会副会長兼災害対策室長

山鹿市民医療センター副作業療法士長 牛島由紀雄

グループワーク

全体の意見交換・質疑応答

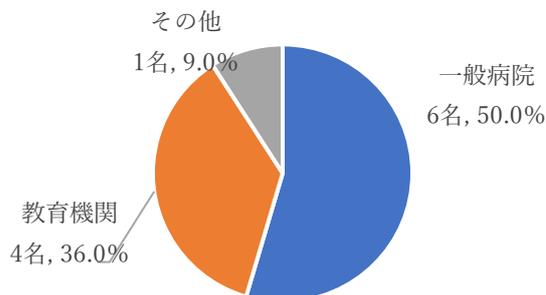
アンケート結果（回収数12，回収率50.0%）

1. 回答者の概要

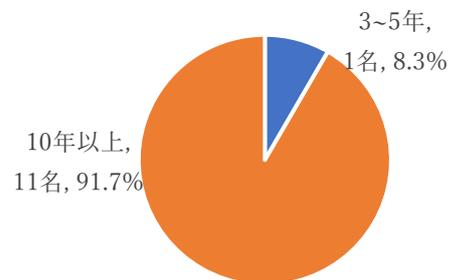
1) 入会状況

会員10名、非会員2名

2) 勤務先



3) 経験年数



4) 勤務時の職業（複数回答）

看護師8名、教員4名

5) 研修会を知ったきっかけ（複数回答）

学会HP 5名（41.7%）、学会からのメール4名（33.3%）、上司の紹介2名（16.7%）
学会関係者の紹介5名（41.7%）

6) 受講動機（複数回答）

テーマに関心があった11名（91.7%）、上司の勧め5名（41.7%）、
オンライン開催なので参加した3名（25.0%）、参加費が安かった2名（16.7%）、
その他1名（8.3%）

2. 研修方法について

1) 開催時期 良い11名（91.7%）、悪い1名（8.3%）

意見：祝日や学期末を避けてほしい。

2) 開催方法 良い12名（100%）

3) 参加費 ちょうどよい12名（100%）

3. 研修内容について

1) 研修会は期待通りであったか

期待通り 5 名 (41.7%)、まあ期待通り 5 名 (41.7%)、どちらでもない 2 名 (16.7%)

2) 今回の研修に対する意見・感想

- ・とても有意義な研修会でした。交流や質問の時間が 15 分でしたが、もう少し時間確保していただけると有り難かったです。全体としてディスカッションできれば、グループワークで出なかった他の意見もお聞きできたのではないかと思います。
- ・実際に災害を経験された医療者の被災者、支援者から経験談聞くことができ、より具体的に想像でき大変よかったです。関わり方など知ることができ、今後活かすことができると思う。
- ・災害について、改めて考えることが多い研修でした。講演内容も分かりやすく実体験をもとにお話ししていただけて大変興味深かったです。また、グループワークでも、それぞれ経験したことを話すことができ、自分が住む地域や職場周辺地域のコミュニティ（医療福祉職以外も）との関わりが大切であると感じました。
- ・実際に災害支援に行かれた方の生のお話が心に響きました。決して対岸の火事に考えてはいけないことです。「今、何が出来るか」「準備出来ることは何か」を考えるきっかけになれば、今回の研修は大成功と講師の先生は仰っていました。災害時に備えた物資の準備、心の準備、支援に行く立場、受ける立場、、考えることはたくさんありますが、今の私に出来ることをひとつひとつ準備したいと思います。

3) 災害支援について困っていること

- ・災害時、被災者でありながら看護者となる場合もあるかと思います。その際の心構えと言いますか自分のケアと他者のケアの両立をどのようにするのかを教えていただければと思っています。
- ・個人では、ボランティアや支援など入れないため、各協会、団体などから派遣される等のシステムを構築してほしい。
- ・限られた環境の中、非日常の災害現場の中での、高齢者、認知症のある高齢者との関わり方など。
- ・自分が出来るのかという思いがある。

4) 老年看護学会における看護師の生涯学習支援について

非常に必要 10 名 (83.3%)、まあ必要 2 名 (16.7%)

5) 今後も本学会主催の研修会に参加したいか

とても参加したい 7 名 (58.3%)、まあ参加したい 4 名 (33.3%)、
どちらでもない 1 名 (8.3%)

6) 今後研修会として取り上げてほしいテーマ、老年看護学会への要望

- ・認知症ケア
認知症のイメージであったり、何か漠然とある認知症の負のイメージを払拭ないしはそれを皆で考えるような研修が開催されると、ぜひ参加したいと思います。
- ・災害支援
災害看護や、支援の入り方など。
- ・排泄の困難事例のケア方法
- ・退院支援や退院調整の多職種調整の具体的な方法
- ・事例報告の書き方や論文の書き方など